

西洋からの警鐘（歴史学者ファーガソン教授インタビュー）

覇権生んだ制度 機能不全に 世界の重心 再びアジアへ

西洋が生んだ近代社会のきしむ音が聞こえる。国民国家の枠組みは揺らぎ、民主主義の機能不全があらわになった。いま、世界の重心は西から東へ移動していると歴史学者のニール・ファーガソン教授は言う。西洋の衰退は何を意味するのか。100年以上にわたって西洋をモデルにしてきた日本の私たちは、何を学ぶべきか。

——2014年、英国では民族や地域の主権を取り戻そうと、スコットランド独立の機運が高まりました。中東では、過激派組織が従来の国家の枠を超えた「イスラム国」の建国を宣言しています。フランス革命以降、西洋が育ててきた国民国家の姿かたちが、変わりつつあるのでしょうか。

「世界はパズルのようなものです。中国やインドのような巨大な国もあれば、小さな国がびっくりするほどたくさんある。アイスランドも中国も、（共通の文化的アイデンティティを持つ国民が基盤となる）国民国家という基本構造は同じです。でもサイズはバラバラで複雑に絡み合う。不規則な断片の幾何学、それが実態です。国民国家という概念でひとくりにすると、国家の多様性が見えなくなり、人々をあざむきかねません」

「平時で、世界に問題がなければ、これでもかまいません。でも有事になったら、国家の多様性は維持できなくなる。第2次大戦や冷戦時代には多くの小国が大国に侵略されたし、2014年には、ウクライナのクリミア半島がロシアに併合されましたね」

——世界の各地で、人々が既存の国家という枠組みは自分たちに合わないと感じ始めたのでは。

「そのこと自体は正常です。民主的制度のもとでは、人々が不満を表明する方法はたくさんありますから。例えば、ヨーロッパに広まるポピュリズムがそうです。人々の不満をうまくとらえ、ナショナリスティックにします。移民反対だとか、欧州統合反対だとか、隣の国なんか嫌だとか。スコットランドのナショナリズムも、そのひとつです」

——あなたは著書やテレビ番組で、世界の覇権を握ってきた西洋が衰退していると論じています。具体的にどういうことですか。

「西洋、特に北米と西欧諸国が世界の中で秀でていたのが、そうではなくなった。西洋を支えてきた諸制度が劣化しているということです。4点あげましょう」

「まず国家の財政が悪化し、債務が巨額になったこと。このため将来の負担を抱える若い世代にとっては、高齢者世代からまるで詐欺にあっているようになってしまいました。18世紀の英国の保守思想化パークがかつて懸念した、現世代と将来世代との間の社会契約の侵害がはっきりしてきました」

「次に、制度や規制が複雑になりすぎて、治すはずの病気そのものになってしまったこ

と。(人々や企業は)倫理的に行動するよりも、見せかけのコンプライアンスばかり重視しています」

「3番目は、安易な訴訟や恣意的な判決で、法の支配力が十分に機能しなくなったこと。最後に、市民社会そのものの衰退。地域の問題を自分たちで解決してきた米国人ですら、ヨーロッパ人のように政府に任せようとしています」

「こうした姿は、フランスの思想家トクヴィルが、19世紀前半に感銘を受けた民主主義的な米国とも違う。英国のジャーナリストで思想家のバジョットが、19世紀半ばのロンドンで体験した西洋社会とも異なる。西洋が劣化していると私が言うのは、こういう意味です」

——著書で、2025年には世界経済の重心が(ロシアと中国にはさまれた)カザフスタンの東に、つまり1500年当時とほぼ同じ経度に戻る、と書いています。世界史の流れが戻るということですか、それとも新たな発展経路にいるということでしょうか。

「中国はじめアジア諸国の経済成長に伴い、重心が東に移っているということです」

「18世紀ごろから20世紀中ごろまで、世界の中心は西洋諸国と西洋人が活動する地域でした。でもその前の時代を見れば、中心はアジアだった。人口が密集し、陸の交易も海上貿易も盛んで、とても発展していたのです。対照的に当時のヨーロッパの都市は小さく、貿易や商業の規模は大きくありませんでした」

——そのアジアに再び重心が移っているのは結局、西洋が劣化しているからでしょうか。西洋以上にアジアが興隆しているのでは。

「同時並行です。西洋がおかしくなっている間に、非西洋の大国が急ピッチで台頭した。彼らが単に私たちを上手にコピーしただけでなく、西洋の側がうまく対応できなくなっているのです」

——そもそも西洋はなぜ、世界の覇権を握れたのですか。

「キラアプリ(魅力を持ったソフト)を活用できたからです。私は六つあったと見ています。競争、科学革命、法の支配と代議制、医学、消費社会、労働倫理です。西洋が500年にわたって世界各地を支配し、その逆は起こらなかったのは、当時の西洋だけがこの六つを持っていたからです」

「中国は、西洋文明のキラアプリをうまくダウンロードしました。一方、私たち西洋の側は、キラアプリのアップデートができていません。自己満足してしまったうえ、機能不全に陥った法制度や規制にとらわれ、時間とエネルギーをムダにしまいました。財政の余力は限られているし、教育の重要性も過小評価していた。その間に中国はじめ他の国々が態勢を整え、伸びていったのです」

——中国がキラアプリの適用に成功した背景は？

「(社会主義を徹底した)毛沢東時代を経験したにもかかわらず、中国人が企業家精神を忘れなかったことが大きい。(村や町の小規模な)郷鎮企業の成功は、その後の改革のモデルでした。海外で資本主義を学んだ中国人が戻ってきたこともある」

——しかし中国は、西洋のキラアプリのうち「法の支配」を取り入れていません。

「そう、それが彼らの最大の弱点です。司法の独立や法の適正な手続きといった文化が定着するには、年月がかかるでしょう。権力の腐敗や一党支配の悪徳から抜け出すことが、どれだけ大変か。中国で法の支配や表現の自由を実現するのが簡単ではないのは、誰の目にも明らかです」

「大いなる課題は、中国が自由な社会を築く方向にむくよう、私たちがいかに貢献できるかを考えることです。中国で（国民党と共産党が並び立った）1920～30年代の内乱を繰り返させてはいけません。歴史の教訓は、西洋モデルをこの国で性急に実験することは大変危険だ、ということです。順を追って少しずつ取り組んでいくしかない。中国が倒れて得をする人はいません」

（2015年1月1日 朝日新聞）